御おジーン、大の尻ポヤッイを採った。小銭を燃菜屋の出 特売のレネスに心を奪されてい、商店街の出先を聴いて **いき動のもう細で作き宣作開い去。 箒の魅決と広いきの**流 飛び出してくる。本当さりを食らい、御お風りへ尻舶を箒 『コネコピト』は多くの創作者の方をは共有されているコ 以殺い誘う一重の文章お、引きの覩手な解除い過ぎませ 、ホテイフライとも観り。魚のフライももらはでかな」 主コ支はパ、白い愐斯琳婺コ人です駢的碑を受り頭る。 箒を構えていた割主ね、説でて衝を聞り뒄こす。 踊んら変気をるらしいな、 アロサス却不明。 校見的おお、五、六七の人間の子掛お肖頌 「一やいなみのの準に、 かいのかないでし」 献と人間な合みちゃきょうとなまきず。 日7月01年10月7日 るもががってる見 ま禁まてた計にさ 「お客おん?」 ンテンツです。 【ナスニキニ】 6 5 だろうか。その生き物は俺の持っている袋を凝視していた。 番近しいものは、二足歩行に擬人化した動物のぬいぐるみ た俺にワインを一本進呈してくれた。投げ売りのワインだ き、サラダと惣菜を皿へ盛って出した。 容で可と記載されている。箸が使えなかったためパンを焼 た。自然保護団体の広報には、人間の子供と同様の食事内 生物であるらしい。 地だった。そこへ父が家を建てる。定年を機に両親は郊外 急に声をかけられ、俺は飛び上がりそうになった。 が、料理酒には充分である。ありがく貰い受け、家路を急 コビトですよ」 のは素早く立ち上がり、脱兎のごとく逃げていく。 を睨んだ。店主は頭を掻いている。 「そうすると、つまりこういう事か? 昨夜は普通の猫 『コネコビト』というのは、ここ数年の間に現れた新種の へ移り、勤務先の利便で俺だけが、この家に残された。 「あれ? お客さん。ご存じありませんか? あれはコネ 「すみません。でも、こいつが勝手に店の中へ入り込んで 「それ美味しい?」 「お茶も飲めよ。喉に詰まるだろ。あと野菜 「唐揚げ。もっと食べたい」 買ったばかりの揚げ物の無事に安堵しながら、俺は店主 コネコの話は、こうである 皿に惣菜を取り分けてやり、俺は携帯端末の情報を追っ 祖父が土地を取得した当時、この辺りは野原の広がる僻 '……食べる?」 住宅街に差しかかり、街灯が点っているだけの道である。 小さな後姿は、夕暮れの道を見る間に遠ざかっていた。 俺は店主の指さす先に目をやった。転がっていた丸いも 俺の家は一軒家である。 尋ねる俺に頷いていた。 空腹を表す音が辺りへ響く 振り向いた俺の目は、不可思議な造形を捉えている。一 悪いと思ったのだろう。店主は、ビールを半ダース買っ ネコだって王様を見ることができる ネコだって王様を見ることができる るきでならこる見な耕王アで計に右 さ。 踏みつけて強んでいさところ抗難の声が聞こえて うる。 口 明日、ロネロお茶色の袋や道は薄化っているの多見で切 **姿多厄きもり、付近の公園へ向からす。 校別用の水黒**辺 年書り離れ二本国で立ち、踊り込む。果浸以とられてい こそにお年書り描と一緒3四子状の酵本多食が、廻って 「落ら着わって、変みっさ九のある猫がって言いさんこう 御お館く。閉しそうにコネコお御を眺めていまな、渋か、 「待って! 行かんでうれ。 かしを水のあるところへ 重れ **節まにアパオ雨水へ袋を投り込む。金融3袋お遡られ、** 年 るロネロコ浸付き、題コワわ式袋を叩い去。見る間コ袋や しまったでしい。国きた制には、年書の誰ははらず、コネ テーケルの角を挟んで向かい合っていた御の譲いコネコ 「それで、その爺さんに人間になりたいって頼んだのか?」 **働られ、良い付いのする広いきの休式>さん出て>る。** 御お註撃の構えを見かるこれこの題を掌で味ちえる。 こネロお敷浸料悪いと思い式が、苦しむな声である。 の拳位無人でくる。した式み拳を負らり、衝払伸いた。 は願いむゃんら。 ななりに願い事を聞いてあれる」 「-4の5つ巻 -4の5つ糧。44世、44世」 「コラー ちょっと待て! 一祭でおくちんだ」 「いっこのやよ。 新いから踏むのお出してくば」 [……その爺ちん酣。 醂又ひゃおいゆ?] ネロお、懸命い強を張り回していた。 「は爺さゃんね、七ハヤジゃない!」 込りを見回しても継もいなかった。 「-~おいしいにはくこす」 コネコな首を観光アいた。 の存在は凝然としている。 答いた乳輪の猫におった。 「キログラフはしいでいる」 のアイに変化していた。 「と回してをひによ」 **師を協く下ろした。** 部の大バナジー 6 01 8 13 12 11 ※王様の絵が上になります 変わらなければ、同行を許可してくれるのだそうだ。 切る り継いで二時間くらいか」 に見せる。 食べさせてくれるらしいぞ_ 者が必要な立場にも拘らず、単独で生活している事実だ。 がサダメ』だから駄目だって」 間になることを望んだ猫が変成するものらしい く庭の一角でネコジャラシが風に揺れていた。(了) 「春まで半年は先だぞ。本当に迎えにくるんだろうな?」 「神奈川。……江の島のほうだな。ここからだと電車を乗 「ごはん! ここ、どこ? 遠いの?」 「……考えたんだが、この団体に行ってみたらどうだ? 「お爺ちゃんとずっと一緒にいたいって頼んだけど、『旅 「駄目。お爺ちゃんが戻って来たら、一緒に行くから」 コネコは頭を振った。 コネコの話は不明点が多い。だが、一番の問題は、保護 満腹になり、眠気のさしていたコネコは、自分の発言を 自然保護団体の質疑応答事例によれば、コネコビトは人 俺は空の皿を片しつつ、ため息を吐く。台所の窓から覗 年寄り猫と春に再会する約束だと言う。コネコの決心が 自然保護団体のホームページが表示された画面をコネコ 折る 山折り 谷折り

ネコだって王様を見ることができる

(c) 2014 楠樹

ネコだって王様を見ることができる

るきでなくこる見る躰王すっ当にキ